

ミュージアム連続講座 2025 全3回

展覧会連携トーク企画 ～学芸員×大学による多視点からのアプローチ～



第1回

第1回

鳥

第2回

武士

大阪歴史博物館 特別企画展
「河内源氏と壺井八幡宮」



八幡太郎凱旋図(部分)
伝翠松画 明治時代
大阪歴史博物館蔵

第3回

星



©ESO/VPHAS+ team.

大阪市立科学館
プラネタリウム「星の一生」

展覧会を“もっとおもしろくする”3週間

今回のミュージアム連続講座は、大阪市内の博物館で、これから開催される展覧会(プラネタリウム含む)をテーマにお届けします。

第一部では、担当学芸員が研究成果を交えながら、展覧会の見どころをご紹介します。第二部では、他分野の専門家による解説やトークを通じ、展覧会を多角的な視点で読み解きます。

多彩な角度からテーマに触れることで、作品や展示への理解がより深まり、実際に会場で作品を鑑賞する楽しみが一層広がります。

日 程:2026年2月20日(金)、27日(金)、3月6日(金)
時 間:午後6時30分～午後8時30分(午後6時開場)

定 員:100名(多数抽選)

参加費:無料

会 場:大阪市立難波市民学習センター講堂

申込締切:2026年2月3日(火)



配信など
詳しくはこちら!

展覧会連携トーク企画

～学芸員×大学による 多視点からのアプローチ～

申込み方法 締切: 2026年2月3日(火)



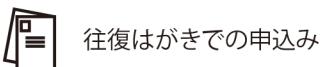
インターネットからの申込み

大阪市生涯学習情報提供システム「いちょうネット」(<https://www.manabi.city.osaka.lg.jp/>)から、「講座・イベント」を選択し、キーワード欄に「ミュージアム連続講座」と入力・検索のうえ、お申込みください。



センターへ来館しての申込み

返信用はがき、もしくは、はがき代85円をご持参のうえ、センター窓口にてお申込みください。開館時間 9:30~21:30(日曜・祝日17:00)、(休館日:毎月第1・3水曜日、年末年始)



往復はがきでの申込み

名前、住所、電話番号、返信用宛名面をご記入のうえ、難波市民学習センター「ミュージアム連続講座」係までお申込みください。(※2026年2月3日(火)必着)

会場: 大阪市立難波市民学習センター 講堂

〒556-0017

大阪市浪速区湊町1-4-1 OCATビル4階

<https://osakademanabu.com/namba/>

●Osaka Metro各線「なんば駅」、南海電車「難波駅」、近鉄・阪神電車「大阪難波駅」よりなんばウォーク、OCATウォークを西へ。「OCAT」「JR線」の表示に沿ってお越しください。

●JR大和路線「難波駅」すぐ。

●大阪シティバス「JR難波駅前」下車すぐ。

問い合わせ先: 大阪市立難波市民学習センター



06-6643-7010

<個人情報の取り扱いについて>

■お申込みの際にお伺いした個人情報は、講座参加の確認や、講座に関するご連絡のためにのみ使用します。お申込みをもって、使用に同意されたものとさせていただきます。

■事業者: 一般財団法人大阪教育文化振興財団

■個人情報の取扱い、苦情及びご相談に関するお問合せ先
一般財団法人大阪教育文化振興財団 個人情報保護管理者 総務課長宛
TEL: 06-4963-2527 (月~金 10:00~17:00)

<講座の開催中止について>

「大阪市域」に「暴風警報」または「特別警報」が午後4時の時点で発令されている場合、もしくは地震等で大阪環状線とOsaka Metroの双方が運行を停止した場合、講座は中止とさせていただきます。詳しくはセンターまでお問い合わせください。



第1回

2026
2/20
金曜日

粉青鉄絵蓮池鳥魚文俵壺
朝鮮時代・15世紀後半～16世紀前半
写真:六田知弘

① 大阪市立自然史博物館 特別展「鳥」

和田 岳 大阪市立自然史博物館
学芸員

近年、生物の分類はDNAに基づいて行われるようになりました。その結果、今までの分類の間違いが判明することがあります。鳥類では、タカ目とされていたハヤブサ類が、インコに近縁であることが判りました。いわばハヤブサは肉食のインコなのです。最近の分類学の知見を中心に、「鳥」展に登場するさまざまな鳥を紹介します。

② 「やきものに描かれた鳥」

宮崎 慎一郎 大阪市立東洋陶磁美術館
学芸員

東アジアのやきものには、古くから「鳥」が表されてきました。そこには、様々な表現上の工夫が見られるとともに、子孫繁栄や立身出世など、当時の人々の願いを読み取ることができます。本講座では、大阪市立東洋陶磁美術館の所蔵品を中心に、やきものに描かれた鳥の造形的な面白さや、文様の意味をご紹介します。



第2回

2026
2/27
金曜日

八幡太郎凱旋図（部分）
伝翠松画 明治時代
大阪歴史博物館蔵

① 大阪歴史博物館 特別企画展 「河内源氏と壺井八幡宮」

谷口 正樹 大阪歴史博物館
学芸員

「八幡太郎」源義家や源頼朝、足利尊氏を輩出した河内源氏一族。彼らの祖が拠点としたのは河内国壺井（現大阪府羽曳野市）、つまり大阪でした。さらに大阪は渡辺党など、様々な軍事貴族（武士）が拠点を置く地でもありました。特別企画展の内容紹介と合わせて、中世前期の大阪が持つ地域性を、武士の目線からひもときます。

② 「軍事貴族の展開と 河内・摂津の地域社会」

仁木 宏 大阪公立大学
大学院文学研究科 教授

源氏や平氏といえば、板東や西海に出自をもつ武者の集団だと思っていませんか。彼らのなかでも棟梁となるような武士は、いずれも貴族の家の出身で、それが摂津国や河内国（現・大阪府）に本拠をおいて活動していました。そうした武士たちを生み出した地域社会の様相もふくめて話します。当日は、谷口学芸員と意見をかわしながら、河内源氏の出自や、壺井八幡宮の宝物の特徴などについて考察を深めたいと思っています。



©ESO/VPHAS+ team.

第3回

2026
3/6
金曜日

ESA/Webb, NASA & CSA, J. Lee and the PHANGS-JWST Team.
Acknowledgement: J. Schmidt

① 大阪市立科学館 プラネタリウム「星の一生」

渡部 義弥 大阪市立科学館
学芸員

夜空の星は、そのほとんどが太陽のように熱く輝く「恒星」です。この恒星は誕生し、輝き、そして最期を迎えるという「一生」を持っており、夜空には様々な年齢層の恒星が見えています。本講演では、この星の一生がどのようなものかを概観し、それがなぜ分かれるのかを、光を虹のように分けるスペクトル観測をキーワードにご紹介します。

② 「最先端の望遠鏡で見た 星の誕生」

大西 利和 大阪公立大学
大学院理学研究科 教授

星は、水素分子を主成分とする分子雲（暗黒星雲）が、自らの重力によって収縮することで形成されます。第1部の講演を受け、本講演では、最先端の望遠鏡が見た星の誕生の様子を紹介します。また、超新星爆発に象徴される星の最期が次世代の星の形成に大きな影響を与え、その循環が宇宙の進化に重要であることも触れます。